

第12回 筑波遺伝子組換え実験安全委員会議事要旨

日 時： 平成28年11月11日（金） 13時30分～15時00分
場 所： 国立研究開発法人理化学研究所 筑波地区 バイオリソース棟1階 森脇和郎ホール
出 席： 委員：石井委員長
高橋、徳永、吉場、中嶋、阿部、小林、西條、石川 各委員（順不同）
理研：船田所長、小幡センター長
事務局：筑波 安全管理室（田口、鯉淵、高橋、太田、田中）

1. 所長挨拶

開会に先立ち、船田所長より挨拶及び委員交代の紹介があった。

2. 委員会開会

石井委員長より、開会の挨拶があった。

3. 資料確認

事務局より、配付資料の確認があった。

4. 第11回筑波遺伝子組換え実験安全委員会議事要旨の確認

事務局より、第11回筑波遺伝子組換え実験安全委員会（平成27年10月19日開催）議事要旨について、既に確認を終え、ホームページに掲載している旨、報告があった。

5. 報告事項

(1) 遺伝子組換え実験実施状況報告について

事務局より、資料に基づき、前回報告から現在までに行われた書面審査、軽微変更及び追記を行った実験計画について報告があった。

(2) 安全管理状況報告について（平成27年度）

事務局より、資料に基づき、平成27年度の安全管理状況について報告があった。

6. 審議事項

(1) 遺伝子組換え実験申請（変更）について（9課題）

各課題の実験責任者又はその代理者より、遺伝子組換え実験変更申請について説明があり、これを審議し、いずれの申請についても了承した。

主な質疑応答は以下のとおり。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-001	バイオリソース事業を目的とした動物遺伝子材料の品質検定に関する研究及び組換え体の維持管理	実験動物開発室 吉木 淳 (代理者：中田 初美)

質問. 追加する核酸はゲノム編集技術の一つであるTALEN (Transcription Activator-Like Effector Nuclease) に用いるものと推測されるが、他のゲノム編集技術であるCRISPR-Cas9システム (Clustered Regularly Interspaced Short Palindromic Repeats CRISPR-Associated Proteins 9) は利用しないのか。

回答. CRISPR-Cas9システムに関わる核酸はすでに承認済みである。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-002	バイオリソース事業を目的とした植物DNAの増殖、解析、タンパク生産及び提供	実験植物開発室 小林 正智

T変16-003	バイオリソース事業を目的とした形質転換植物の作製、増殖、解析と提供	
----------	-----------------------------------	--

質問. att組換え配列については表記を変えただけか。

回答. att組換え配列の種類が限定された表記になっていたので、att組換え配列全般として記載した。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-004	ジーンバンク事業を目的とした遺伝子材料の品質検定に関する研究及び組換え体の保管管理	遺伝子材料開発室 村田 武英

質問. 追加する核酸供与体のクロロデンドロンとはどのような植物で、追加する目的はどのようなものか。

回答. 海産藻類の植物である。近年、マーカーとして広く使用されており、青色チャネルロドプシンの解析のため使用する。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-005	バイオリソース事業を目的とした遺伝子組換え微生物の維持管理	微生物材料開発室 大熊 盛也
T変16-006	健康および環境に関する微生物の系統と機能に関する研究	

質問. Geobacillus属細菌では追加するベクターが1種類であるが、問題はないのか。

回答. 寄託予定の組換えGeobacillus属細菌は、計画書に記載したベクターを利用して作製されるが、ベクターの一部が宿主に残存しているため、計画書ベクター欄には、改変に使用されるベクターを記載した。そのためベクターの種類は1種類で問題ない。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-007	遺伝子導入培養細胞、胚、動物の作製およびこれらを用いた胚操作技術の開発	遺伝工学基盤技術室 小倉 淳郎 (代理者:井上 貴美子)

質問. 生殖巣片は法令上の生物に該当するのか。使用する生殖巣片は成熟したものなのか。

回答. 一般に組織片は生物に該当しないが、生殖巣片には精子が含有されている可能性があるため、法令上の生物として扱う。なお、使用する生殖巣片は未成熟のものであるため精子が含まれていても受精能は無いと考えられる。

質問. ウサギの胚移植はなぜ他機関で行うのか。

回答. 先方機関の移植技術が熟練しているためである。

質問. 胚の運搬はどのように行うのか。

回答. 胚の運搬では温度管理が重要であるため、研究者自らが行う予定である。但し、温度管理が徹底された輸送業者が見つかった場合は、業者に依頼する可能性もある。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-008	哺乳類発生過程の包括的解析	疾患ゲノム動態解析技術開発チーム 阿部 訓也

質問. なぜベクターを削除するのか。

回答. 計画書中のベクターに重複して記載されていたものがあったため、一方を削除したものである。

質問. 申請書中に記載のある各種幹細胞とは、全てマウスの幹細胞のことなのか。

回答. マウスの幹細胞及びヒトiPS細胞である。

受付番号	課題名	実験責任者
T変16-009	植物および酵母遺伝子の遺伝子導入実験系による機能解析	機能開発研究グループ 篠崎 一雄 (代理者：藤田 美紀)

質問. class3の核酸供与体を追加しているが、拡散防止措置がP1レベルである理由は何か。

回答. 追加する供与核酸は、同定済み核酸であり、哺乳動物等に対する病原性、伝達性に関係しないため、二種省令第5条第1号ハ及び第4号ハより、宿主の実験分類で拡散防止措置を決定する。宿主に変更はないため、拡散防止措置はこれまで通りP1及びPIPレベルとなる。

7. 答申取りまとめ

答申を取りまとめ、本日付けで委員長より所長に答申することとした。

8. その他

筑波遺伝子組換え実験安全委員会運営規則の改正案について、事務局より資料に基づき説明があり、本日付で承認した。

9. 委員会閉会

小幡センター長より、挨拶があった。

以上